

まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎

14



「10月10日 まぐろ

の日」。これは、19

86年に日本鯉鯨漁業

協同組合連合会(日鯉

連)が、創設した。由来

は、奈良時代の万葉集

の古歌にある由だが、

この日の創設には、外

国産のマグロが大量に

輸入され、供給過剰と

なり、魚価が下がり、

マグロの国内消費を拡



「10月10日まぐろの日」

新たな視点で世界に呼びかけ

大する必要に迫られた背景がある。

◆資源の持続的利用推進の日◆

日鯉連が解散し、「まぐろの日」も、埋もれたが、日本かつお・まぐろ漁業協同組合が、再び、この日の復活に取り組んでいる。近年、必要が生じている現状

目を握れば、この源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日としてグローバルな視点で位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

水産物全般の需要減退は、マグロも例外では

ない。この日を蘇らせることにより、日本の

食文化を支えるマグロ

の需要喚起を図ろうと

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

7月9日に発表され

状況(漁獲量)は、管

理体制を著しく改善し

ている。

◆懸念されるWCPIT

Cの停滞◆

この水産白書の指摘

した状況は、管理が停

滞している中西部太平

洋マグロ類委員会(W

CPFC)の現状を懸

念させる。WCPFC

の停滞は、先進国と発

展途上国の利害の対立

に起因する。高度回遊

魚のマグロ資源の保存

・管理は、各国が自国

の利益を最優先すると

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

「まぐろの日」を、資源の持続的利用を確保するために国際社会の協力を推進する日として位置づける今日的意義もあると思える。

(毎月1回連載)